留学のススメ

皆さんは留学に興味はあるだろうか。一言で留学と言っても留学先や期間、目的などによって非常に多くの種類があり、分からないことが多いだろう。そこで今回、アメリカ合衆国カリフォルニア州デイビスにI年生の8月から9月に留学した、理学部第一部数理情報科学科4年神田沙羅さんに話を聞いた。

Q 留学しようと思ったきっかけは何ですか。

A 英語がもともと好きだったことに加えて、大学生の夏休みは自由に過ごせる時間が多いと思ったからです。留学先は学校のプログラムにあったことと、寮などではなくホームステイが良かったことから決めました。

▲ 留学先のUC Davis の校舎

Q 留学に向けてどんな準備をしましたか。

A アメリカはカード社会なので、カードを作りました。勉強の面では、大学に入ってから普段の学校の授業しか英語に触れる機会がなかったので留学前に自主的に勉強しました。高校時代ドイツに留学したことがあったので、準備はスムーズにできました。

Q 英語での生活に不安はありましたか。

A 留学経験があったので、日常会話に関して不安はありませんでした。それより英語での授業が不安でした。大切な連絡事項も英語で伝えられるので聞き逃さないように注意していました。

Q 留学中の生活について教えてください。

A 午前中は1コマ目に発音、2コマ目に動画などを見てディスカッション、3コマ目に学校内にいる地域の人にインタビューをして発表物を作る授業がありました。午後は学科ごとに分かれて社会科見学のようなことをし、私はインテル（Intel Corporation）を訪問しました。

Q 休みの日の過ごし方を教えてください。

A 留学プログラムの中に追加で有料のオプショナルツアーがあり、私はそれに参加して、サンフランシスコ観光をしたり、シックスフラッグス（遊園地）に遊びに行ったり、川でラフティングをしたりしました。個人的にはサクラメントへ観光に行きました。

Q ホームステイ先で感じた文化や生活習慣の違いはありますか。

A 土地がとても広いのでゲストルームやお風呂、トイレがいくつもありました。私のホームステイ先にはプールまであったので驚きました。また、土足で生活しているので玄関がなく、家の外と中の区切りが曖昧でした。あと、日本のように電車やバスがきちんと時間通りに動いていなくて遅刻が多々ありました。

Q 勉強以外で学んだことはありますか。

A 新しい土地に出会うことができました。特にホームステイ先の人たちが家族のように感じます。また、留学で友達ができました。生活面では、ホームステイ先で自分の身の回りのことを全てやらないといけなかったので、今まで実家暮らしだった私は家族のありがたみを感じました。

Q 留学についてイメージと違った点はありますか。

A 思っていた以上に自由な時間が多かったです。ですから、校内にあるゲームセンターのようなところでビリヤードやボーリングをよくしました。地域の人も多くいて、日本の大学よりも地域に密着していると感じました。

▲ 留学先の神田さんのクラスメイト

Q 留学で一番印象に残っていることはなんですか。

A 授業で校内にいる地域の人にインタビューしたとき、多くの人がとても丁寧に真剣に対応してくれたことです。あたたかい土地柄だと思いました。

Q 留学に興味のある人にアドバイスをお願いします。

A 少しでも行ってみたいと思っていたら行ってみるべきです。自由な時間が多くあるのは今だけです。旅行だと行きたいところだけ行く観光になってしまうし、英会話などの塾では授業内だけの勉強になってしまいます。留学なら当たり前ですが英語で生活しなくてはならないので、自分の伝えたいことを英語で伝えないといけない危機感があり非常に良いと思います。また、多くの人と接する機会があり、いろいろな考えを持った人と出会うことができます。さらに、ホームステイだともう一つ実家ができたような気分になります。

Q また留学に行く予定はありますか。

A はい。3月から9ヶ月間、前回と同じカリフォルニア州にまた留学します。前回行った町が好きなのでもう一度同じところに行くことにしました。

Q 長期留学にした理由を教えてください。

A 3年生になって将来について、自分について見直す機会が多くなり、私はやはり英語が好きだと確信しました。そこで、それを自分の強みや自信に変えたいと思い、英語を勉強し直すために思い切って長期留学を決意しました。

本学の留学プログラムには、語学研修プログラム（サマー／スプリング）、インターンシッププログラム（スプリング）、カリフォルニア大学1年留学プログラムなどがある。各種留学奨学金、留学フェア、説明会等は本学ホームページや各校舎掲示板に随時掲載されている。また、各校舎の国際交流課では、留学情報誌、留学関連図書、サマー語学研修パンフレット、留学プログラムパンフレットや協定校で使用している実際の教科書などを見ることができる。興味のある人はぜひ留学について調べてほしい。

論説

ISIL日本人拘束事件にみる、世界の実情と未来

1月20日、過激派組織ISILが日本人を人質に身代金を要求する動画を公開し、日本中に衝撃が走った。身代金は安倍首相が1月17日カイロの経済会合にて「ISILと闘う周辺各国に、総額で2億ドル程の支援を」と発言したことに対するものとISILは主張した。だが人質が拘束されたのは昨年で、身代金はISILの資金源の一つにすぎない。故に安倍首相が一貫して強気な姿勢を見せたことは評価できると言えよう。

しかし問題はそう単純ではない。中東支援の目的には、国際社会への貢献とそれに伴う国連での地位の向上、中東の石油資源の確保がある。石油の密売はISILの主な資金源の一つであり、また中東情勢の悪化は石油価格に響く一大事であるからだ。さらに中東に限らず国際支援の実状は多くの無駄と先進国側の恣意的な思惑とによって成り立っている。もちろん支援の多くは世界を良くしているだろう。しかしその一方で、かつて大国がその土地の人間や文化を無視し中東やアフリカ地域を直線で区切り植民地化していったように、一方的に「支援」を押し付けている。「地域にしっかり足をおろして何かにじっくり取り組むことなど、そもそも求められてはいない。なぜなら一番大切なのは、派遣された隊員数と、援助する予算の額を国連で競うことだから。」と、世界を渡り歩き現地の声を集めた中村安希の著書『インパラの朝』にも記されている。世界にはさまざまな文化や価値観がある。それらを無視し、「発展」を対価に資源や労働力、将来の市場価値、さらには国際社会での地位を得る為に利用する。我々にとって「良い」ものが、全世界でそうだとは限らない。一方的に価値観を押し付け、経済規模を拡大することだけが発展なのだろうか。

この現状を正当化し、この社会を支配している資本主義は商業上の利益を第一に考える。そこで重要なことは浪費と市場や消費の拡大成長に加え、全員が同じ価値観を持ち際限なく物質的豊かさを求め続け経済発展を最重要視することである。それ故先に論じたように心を持った人間という存在を無視し、資本主義という機械の取り換えの利く部品として人間を扱う思想が内包されている。そして、現在この資本主義は崩壊寸前である。資源はもとより、地球とは有限のものだ。また、拡大を基礎とする資本主義がその思想とシステムを拡大できる余地は少なくなってきた。同時にかつての地球環境は破壊され、変化していく環境に人類が耐えられるという保障はない。さらには1年で約7千万人増える人類という種を、地球の生態系はこれからも生かしていけるのだろうか。

このように現在の社会の在り方は、明らかに改善の必要がある。ではどうあるべきか。第一に持続可能でなくてはならない。そして同時に資本主義がもたらした物質的豊かさも守るべきだ。また価値観の違う人間同士が争わない為に、その土地の文化と人間個人のもつ性格の多様性を認め、問題解決には個々具体的に取り組まなくてはならない。更に人間の生を問い直すことで、鬱や自殺といった問題を克服し、精神的豊かさを実現しなくてはならない。こうした社会を実現する為には、無駄の出ない経済システムと持続可能性を実現する科学技術、そしてそれらを支える思想が必要だ。あらゆる学問分野と社会を生きる我々ひとりひとりが力を合わせなくてはならない。我々学生に今できることは自分の専攻分野を学ぶ事はもちろん、世界を広く見てあらゆる分野と手を取り、各々ができるレベルで人間の未来を考えることではないだろうか。

20世紀美術の巨匠、13年ぶりの大回顧展。

マグリット展

2015 3.25 Wed.→6.29 Mon.

毎週火曜日休館　※ただし5月5日(火)、5月、26日(火)は開館。

観覧料　当日　[一般 1,600円、大学生 1,200円、高校生 800円]
前売/団体　[一般 1,400円、大学生 1,000円、高校生 600円]

国立新美術館

ルネ・マグリット《空の鳥》 1966年　油彩/カンヴァス　68.5×48cm
ヒラリー＆ウィルバー・ロス蔵　Hilary & Wilbur Ross
© Charly Herscovici / ADAGP, Paris, 2015
© Photothèque R. Magritte / BI, ADAGP, Paris / DNPartcom, 2015